

国際ロータリー第2560地区  
ガバナーテーマ

「夢 (gift) を明日へ  
つなげよう」

高田ロータリー今年の  
スローガン

「ロータリーは親睦と  
奉仕の融合」



世界へのプレゼントになろう

2015～2016年度

国際ロータリー会長 K.R.ラビンドラン  
2560地区ガバナー 山本 和則  
高田ロータリー会長 水上 喜芳  
幹事 大島 誠

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号  
TEL (025) 526-3288 FAX (025) 526-3534  
メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp  
例会場：デュオ・セレッソ TEL (025) 526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員  
田中 正人 小熊 貞良 栗田 修行  
笠谷 吉春 小林 豊茂 霜村 浩

## 第34回例会 ■ 3月11日(金)

No.34

### 会長挨拶 ● 水上 喜芳



皆さんこんにちは。

あれから5年と言えば、もちろん  
東日本大震災です。

地震災害だけでも1000年に一度  
と言われる大災害であった上に、原発災害が重  
なった世界でも類のない大災害になってしまいま  
した。

それが、丁度5年前の今日、3月11日でした。

その年度、当クラブから東山ガバナーを輩出し  
ており、東山ガバナーと地区役員ともども、その  
対応で大変忙しかったことを思い出します。

私も、ロータリー財団担当副幹事を仰せつかっ  
ており、発生後すぐに東山ガバナーから「放射線  
線量計」を現地に送りたいが何とかならないかと  
の指示を頂き、価格も手頃な10万円～20万円の  
線量計をインターネットも含めメーカに当たりま  
したが、まったく入手することはできませんでした。

その様な混乱の中、世界のロータリークラブか  
らの復興支援に関わる寄付総額は780万ドル日本  
円で約7億円になり、ロータリーの復興支援総事

業は270件、総額約14億円でした。

又、世界からは金銭や物資の寄付として174ヶ  
国・地域で寄付総額は1,640億円と報告されてい  
ます。

このロータリーの寄付も含め1つの災害で、こ  
れだけの寄付が集まるというのは驚くべきことと  
言われています。

そして支援国の20%に当たる35ヶ国の国々は  
アフリカ、アジア諸国の非常に貧しい、経済的に  
安定していない国々からで、日本のODAに感謝  
しているからとのことでした。

また原発事故処理支援物資もアメリカ、フラン  
スを中心に11ヶ国から支援を受けています。

その中には、ウクライナから放射線測定器  
2000台と言うものや、クエートから原油5百万  
バレル、400億円相当と言ったものまでありまし  
た。

発生後5年経ち、復興に一区切り付いた地域と  
遅々として進まない地域と復興格差が広がって  
おり、まだまだ復興支援が必要なことを感じます。

本日の卓話はJ-ホールディングス株式会社  
代表取締役社長の伊藤利彦 様からお話を頂きま  
す、よろしくお願ひします。

## 出席報告

出席率 96.36%

## 委員会報告

出席・ニコニコBOX委員会

羽深耕時君——3月3日にハローツウ2号店を直江津にオープンいたしました。おかげさまで想定以上の賑わいを頂いております。今後とも本店、共々宜しく願いいたします。

大島 誠君——3月15日 千葉県柏市にカーブスを出店いたします。県内の6店舗に加えての7店舗目です。今後は首都圏への展開にも力を注ぎます。

SAA

高橋孫左衛門君——今年初の食事数がピッタリです。

親睦委員会

3月の会員お誕生日各お祝い

国際奉仕委員会（澤井委員長）

上越教育大学国際交流のつどい参加報告

## 幹事報告

配布物：週報No.33

回覧物：小林古径記念美術館パンフ

報告：3月14日合同例会のお知らせ（18日は振替でお休み）

高田 RC50 周年の際、バナー作成時に上杉謙信公の英文での解説パンフを作成しましたが、もしお持ちの方があれば事務局へお貸しいただけますか。

## 卓話 元気が一番 J-ホールディングス・グループの現状と展望



J-ホールディングス株式会社 代表取締役社長 伊藤 利彦 様

私の経験では、強い会社の必要3条件とは、①会社の原点を大切にす、②人を大切にする、③スタッフのありたい姿と会社のありたい姿の実現を目指す、ことです。当グループの経営改善は、この3条件を応用して進めています。

とくに、スタッフが元気に働ける環境づくりは、経営の基礎です。そのためには、会社としては、正直者がバカを見ないこと＝正義の会社作りが重要です。実際、当グループのある会社では、正義の会社作りを重点施策の第一に掲げたところ、そこから急速に業容伸長し、大幅な収支改善が実現しました。次に、スタッフが為すべきことは、自身のありたい姿の実現を願うこととスタッフ・ミーティングを行うことです。スタッフ・ミーテ

ィングは、管理職抜きでテーマも与えず気になることを話合う、いわば記録をとる井戸端会議みたいなものですが、これで、スタッフの意識は大きく変化します。結果として、クレーム激減、スタッフと経営の負担減少、業績向上につながっています。最後に経営の役割は、会社のありたい姿を展望すること、スタッフをサポートすること、3本の管理シートで業務実施、管理をすることです。

単純なことのように見えますが、事実、スタッフ・ミーティングを実施した6社では収支均衡が実現しました。これは、私にとって、過去3回の再建を含め、一度も失敗したことのいやり方なのです。経営改善策の一例としてご参考になれば幸いです。